



Subaru

ニュース767

'21.11.10

男声合唱団

「昴」第10回団内コンサート・2年ぶりの開催！ 男声合唱団昴・ソリスト達の美声がホールに響く

11月7日

□ 昴第10回団内コンサートが2021年11月7日(日)14:00~16:30 ねむかホールで開催されました。コロナウイルス感染禍で、2020年の開催が中止されて以来、延期続きとなっていました。団内コンサート担当者(大島・小西・向井・川妻さん)のご努力と、門先生・森先生・中村先生にご協力いただいて、ようやく開催することになりました。



□ 今回は、20名のソロ発表、パート別演奏(テナー1、テナー2、バリトン・バス)の3パート、門万沙子さん、森二三さんのピアノ独奏がありました。また、ソロ発表には、ピアノ伴奏を、中村聖保さんに5名、森二三さんに11名、門万沙子さんに4名が、お願いすることになりました。

なお、2名のソロ予定者が、都合で欠席されました。また、1名の女性昴ファン、3名の団員と共に藤後名誉団長に参加いただきました。

□ 「開会の挨拶」を本並先生にお願いしました。

「延び延びになっていたコンサートがやっと実現しました。練習の時間十分あったと思うが、またそれだけ年も取ったということになる。私は指揮者。いつも考えていること、合唱で一番大事なのは「声」。合唱の声と楽器の音の違いは何か？高価な楽器は、最初から良い音が出る。人の声は、最初から良いのではない。日常の訓練が必要。どんな声が良いか？感性を身につけること。いい声かどうかは聴く人によって違うが。

音楽は感性に訴える芸術。聴いて判断する芸術。

今日のレパートリーは“すごい！”優れたピアニスト3人！“ぜいたくなコンサート”皆さんの奮闘に期待します。

□ 最初に、中村聖保さんに、ヴォイストレーニングをしていただきました。またオープニングの歓迎歌として、モーツァルト「フィガロの結婚」から「スザンナの Aria」を歌っていただきました。



□ トップバッターに大橋一雄さんが、「ボカリーズ vocalise」(ラフマニノフ作曲)を中村聖保さんの伴奏で、高音・母音のみの歌唱に挑戦されました。紹介文で、「ソプラノ・テナー用のハイヴォイス、歌詞なしの母音のみ。ド#から2オクターブの間、全ての12音を出して作曲されており、母音で歌います。最近思うことは、音域・声域の正しさについてです」と。

□ 吉岡敬さんが、Luzzi ルッツイ作曲「アヴェマリア」を熱唱されました。イタリア語初挑戦、外国語で歌う難しさを痛感すると。伴奏は中村聖保さん。

□ 山口重光さんが、「初恋」(石川啄木作詞、越谷達之介作曲)を歌われました。

昂での初演。自己の初恋に想いを寄せ、見事「初恋」を歌い上げました！
ピアノ伴奏は森二三さん。



□更家幸雄さんが、「波浮の港」(野口雨情作詞、中山晋平作曲)を、鈴木淳一さんが「椰子の実」(島崎藤村作詞、大中寅二作曲)を、森二三さんの伴奏で歌われました。毎月の千秋教室に熱心に通い、歌う苦しみ・楽しみを味わいながら、今日のコンサートで歌いあげられました。



□東尾博司さんが、「Over the Rainbow」を、「エラ・フィッチェゼラルドが歌っている曲で歌います。」と英語で歌いました。バスのうたごえが歌の曲想とマッチしての熱唱でした。森二三さん伴奏。



□光本 章さんが、「夕焼け」(高田敏子作詞、信長貴富作曲)をピアノ伴奏：門万沙子さんで歌いました。
「夕焼けが火の色に、8月9日長崎が、火の色に染まった。夕焼けが血の色に染まった。叔父さんが、長崎の親せきの家に行く途中、折り重なる屍の中を歩いて行った、と言う。平和の祈りを込めて歌います」と。鎮魂歌、静かな歌ごえに、ホールはひととき平和の祈りで静まりました。

□立川孝信さんが、カンツオーネの名曲「マンマ」に挑戦されました。「カンツオーネはテナーの憧れ！人間の声のすばらしさを感じます」と。1番日本語で、2番イタリア語で歌われました。門万沙子さん伴奏。



□伊藤 知さんが、モーツァルト オペラ「ドンジョバンニ」第1幕から「彼女こそ私の宝」を「やわらかく、自然な声で、端正に上品に歌うことをめざして」と、騎士オスタビオが歌うアリアを、声量豊かにソフトな声で歌われました。ピアノ伴奏は門万沙子さん。



□一部の最後に、各パートのパート演奏が続きました。トップテナー「美らうた」(作詞：いがらしのりこ 作曲：安広真理)、セカンドテナー「空の色」(詩：金子みすゞ 作曲：石若雅弥)、ピアノ伴奏：中村聖保さん。バリトン・バス合同「祖国の山河に」(詞：紺谷邦子 作曲：芥川也寸志) ピアノ伴奏：森二三さん。

「定例レッスン・パートレッスン・声楽を最大限の努力で取り組もう」と、パートレッスンの充実が昇の課題の一つになっています。毎月のパートレッスンを休まずに、昇のレッスンの基本活動として位置付けて続けていきましょう。レッスン不足の今回、短い練習時間の中でも、各パートともそれぞれのパートの特徴を生かし、よくまとまった演奏の力量を発揮した発表となりました。

□第一部の司会・川妻さんの後、休憩をはさんで、第二部が小西さんの司会で始まりました。



□木越敏郎さんが、「初恋」(石川啄木作詞、越谷達之介作曲)を歌われました。木越さんは、「第一合唱団」に所属され、またシューベルト「冬の旅」全曲演奏コンサート開催と、うたごえでは超ベテラン。昇コンサートの支援も考えていただき、8月に入団されました。ソフトな中音部の声で、「初恋」を歌われました。ピアノ伴奏は森二三さん。

□引き続き、昇のベテラン歌手、仲谷増広さんが「津軽平野」(作詞・作曲：吉幾三)を、山本直一さんが「郵便馬車」(シューベルト作曲「冬の旅」より)、奥村克美さんが「木兎(みみずく)」(作詞：三好達治、作曲：中田喜直)を歌いました。豊かな声量で、それぞれの歌の心を表現される、見事なうた声が響きました。ピアノ伴奏は中村聖保さん。



□山本宏司さんが「O del mio amato' ben 私の愛する人」S.ドナウディ作曲を、「イタリアから心を離せない私、叶わぬ恋に悩むイタリア男の思いを歌います」と、切ない恋心を、美しいテナーの声で歌いました。



□引き続き、千秋教室のレッスン生が日頃のレッスンの成果を披露しました。ピアノ伴奏は森二三さん。

川妻成美さんが「夜明けの歌」（作詞/岩谷時子 作曲/いずみ たく）を歌いました。「のびやかに大きく歌うことを心がけて、慣れ親しんだ「夜明けの歌」を歌いたい」と。

土井一正さんが「淋しいアコーディオン」(作詞：イサコフスキー 作曲：モクロソフ)をロシア語で歌いました。「戦争が終わった1946年の曲。メロディとロシア語の歌詞を合わすのに苦労しました。哀愁漂う名曲です。」土井さんのバスの低音がロシア歌曲の詩情を引き出し、聴かせる曲となりました。

向井勝弘さんが「光さす窓辺」Fenesta che lucive (作詞作曲：不明) を、「私にとって、3回目の団内コンサート、鼻ではいつも発声法に苦労している。この曲の”切なさ“が表現できるか？」と。見事カンツオーネ「Fenesta che lucive」を熱唱しました。

吉川勝彦さんがロシア歌曲、ラフマニノフ作曲「ひそかな夜のしじまで」を歌いました。「声楽レッスンの基本、リズム・テンポの取り方、ピアノ伴奏を耳でとらえ、楽譜に忠実に声を出す苦しいレッスンの連続でした」と。

大島成美さんが、「君と旅立とう Time to say good by」(作詞：Lクアラントット 作曲：Fサルトーリ)を熱唱しました。「有名な曲。高い音がむつかしく、なかなかうまく歌えない、どこまで歌えるか？聞いてください」と。



ソロのトリに、千秋昌弘さんが、「アベ マリア」(シューベルト作曲、堀内敬三：訳)をドイツ語と日本語訳詞で歌われました。「コロナパンデミックが2年近く繰り返されている中、日本では1万5千人以上の方が亡くなり、世界では400万人以上の命が奪われています。祈りを込めて、愛と希望を込めて歌います」と。

プログラムの最後に、2人の専属ピアニスト、門万沙子さんに、武義和作曲「夢」を、森二三さんには、ショパン「ワルツ No.14」を演奏していただきました。見事な演奏に聴衆は大きな拍手で応えていました。



最後に伊藤 知さんから「閉会の挨拶」がありました。

「皆様お疲れさまでした。

3人のピアノの先生、リハーサルを含め、出場メンバー全員のピアノ伴奏をしていただきました。

ありがとうございました。お世話いただいた実行委員のみなさま、ありがとうございました。

非常に充実したコンサートの時間でした。一人で歌う、独唱することが、それぞれみなさん、いかに大変なことであったか、コロナ禍で、出場できなかった方もおられ、また病いと闘いながら練習された方もおられます。そのなかで、20人もの方々が出場できた。今、その到達点を聴くことがで

きました。これだけのすばらしいメンバーのいる男声合唱団「昂」は誇らしい！この団内コンサートの力を、広島祭典の演奏に生かしていきましょう。また来年4月の13回昂コンサートに結びつけましょう！体調管理して、これからの練習に励みましょう！声楽教室に入っておられない方、今の声楽教室に、日程が調整できない方は別のところも紹介できます。皆さん、声楽教室にも参加してください。」

男声合唱団 昂 第十回 団内コンサート プログラム

日時:2021年11月7日(日) 集合13:30 開演14:00 場所:ねむかホール

- | | |
|---|--|
| 1) 開会のあいさつ(本並美徳) | 15) 高田 和弘 ・尺八 【春の海】 P:伊藤 和子
作曲:宮城 道雄 |
| 2) 発声指導 中村 聖保 (昂声楽教室指導教師) | 16) 仲谷 増廣 【津軽平野】 P:中村 聖保
作詞・作曲:吉 幾三 |
| 3) 大橋 一雄 【ボカリーズ vocalise】 P:中村 聖保
作曲:ラフマニノフ | 17) 山本 直一 【郵便馬車】 P:中村 聖保
シューベルト 冬の旅より 作曲:シューベルト |
| 4) 吉岡 敬 【アベマリア Ave Maria】 P:中村 聖保
作曲:Luzzi (ルツツイ) | 18) 奥村 克美 【木兎(みみづく)】 P:中村 聖保
作詞:三好 達治 作曲:中田 喜直 |
| 5) 山口 重光 【初恋】 P:森 二三
作詞:石川 啄木 作曲:越谷 達之助 | 19) 光本 章 【夕焼け】 P:門 万沙子
作詞:高田 敏子 作曲:信長 貴富 |
| 6) 更家 幸雄 【波浮の港】 P:森 二三
作詞:野口 雨情 作曲:中山 晋平 | 20) 山本 宏司 【O del mio amato ben】 P:門 万沙子
私の愛する人 作曲:S. Donaudy |
| 7) 鈴木 淳一 【椰子の実】 P:森 二三
作詞:島崎 藤村 作曲:大中 寅二 | 21) 川妻 成美 【夜明けのうた】 P:森 二三
作詞:岩谷 時子 作曲:いづみ たく |
| 8) 東尾 博司 【Over the Rainbow】 P:森 二三
作詞:E. Y. Herburg 作曲:Harold Arlen | 22) 土井 一正 【淋しいアコーディオン】 P:森 二三
作詞:イサコフスキー 作曲:モクロンソフ |
| 9) 寺脇 伸育 【平城山】 P:森 二三
作詞:北見 志保子 作曲:平井 康三郎 | 23) 向井 勝弘 【Fenesta che lucive】 P:森 二三
光さす窓辺 作詞・作曲:不明 |
| 10) 立川 孝信 【マンマ】 P:門 万沙子
作詞:B. cherubini 作曲:C. A. Bixio | 24) 吉川 勝彦 【ひそかな夜のしじまで】 P:森 二三
作詞:A. フェート 作曲:ラフマニノフ |
| 11) 伊藤 知 【Dalla suapace la mia dipende】 P:門 万沙子
彼女こそ私の宝 わが「ドン・ジョヴァンニ」第1幕から 作曲:W. A. Mozart | 25) 大畠 成美 【Time to say goodbye】 P:森 二三
君と旅立とう 作詞:L. クアラントット 作曲:F. サルトーリ |
| 12) パート別演奏 (T1) 【美らうた】 P:中村 聖保
作詞:いがらしのりこ 作曲:安広 真理 | 26) 千秋 昌弘 【アベ マリア】 P:森 二三
訳:堀内 敬三 作曲:シューベルト |
| 13) パート別演奏 (T2) 【空の色】 P:中村 聖保
作詞:金子 みすゞ 作曲:石若 雅弥 | 27) 門 万沙子 ・ピアノ独奏 |
| 14) パート別演奏 (Br & Bs) 【祖国の山河に】 P:森 二三
作詞:紺谷 邦子 作曲:芥川 也寸志 | 28) 森 二三 ・ピアノ独奏 |
| | 29) 閉会のあいさつ(伊藤 知) |

<休憩>

一部訂正あり

- 9) 寺脇 辞退 ⇒ 光本 章 「夕焼け」 19) 光本より
15) 高田 辞退 ⇒ 木越敏郎 「初恋」

(投稿)

昂の宝・団内コンサート

男声合唱団・昂 山本宏司

コロナ禍により延期になっていた第10回・団内コンサートが11月7日に、ねむかホールで開催されました。2019年夏に開いて以来、20年はコロナのため中止、今年も8月初旬に予定していたものが再び中止となり、やっと2年数か月ぶりに行うことができました。

昂では、団メンバーの歌唱力の向上を目指して、毎月1回の声楽教室が4教室設けられています。団内コンサートというのは、希望者がではあるのですが、参加者がヴォイストレーナーの指導を受けてソロで歌う練習を重ね、例年8月に団全員の前で発表し合うというものです。

2年も間があったとはいえ、声楽教室もコロナのためこの間実施できたのは予定の半分で、十分な練習はできませんでしたが、団員の団内コンサートへの思いは強いものがありました。若干名の欠席はありましたが、実に20名の団員がエントリー。

ポピュラーな日本歌曲からドイツ、イタリア、ロシアの歌曲、オペラのアリア、更にミサ曲まで、実に多彩な曲と歌声を披露し合いました。

普段はそれぞれパートの一員として歌っているので、特に他パートの方の声がどんなものかをよく知らないこともあるのですが、ソロの歌声を聴くことで、この人はこんな良い声をしてるんだなどと驚くこともあり、とても楽しいものです。

プログラムメニューには、パート別演奏もあります。トップ、セカンド、そしてバリトン・バス合同の3パートによる演奏がなされました。これも、月1回あるパートレッスンの際に、パートの発表曲をこの日のために懸命に練習してきたものです。これはパートのまとまりを強めるのにとっても役に立ちます。

更にコンサートの最後を締めくくるのは、お世話になっているピアニストの先生方のピアノ演奏です。素敵なお音に酔いながらいつもコンサートが終わるのです。

プロの指導を受けて、プロの伴奏で独唱する。緊張するけれど夢のような場面です。そしてまた明日から楽しく合唱をしていこうという力を団内コンサートは与えてくれます。団内コンサートは、昴の宝です。

2021年11月8日

(投稿) 団内コンサートで感じたこと

BS 川妻成美

今までは歌の上手下手に気をとられることが多かったのですが、今回は全く違った面に気づいたことで、今までになく大変心温まる豊かなひとときになりました。それは・・・

昴の仲間とはいいながら、いつものレッスンで合唱はするけれどみんなと直接話す機会もほとんどなく、単なる知り合いみたいな感じで過ごしていました。

今回の団内コンサートでは一人一人の歌っている姿を見て、歌だけでなく表情や仕草にもそれぞれの個性の豊かさやその人の生き様のようなものにも気づかされ、一気に身近な仲間として親しみを感じられるようになったのです。

そして70歳80歳の高齢なのに大勢毎週のように集まって好きな歌を歌う、より高い目標に向かってソロのレッスンにも取り組む、さらには平和のうたごえを広げるためにがんばっている・・・、こんな素晴らしい生き方をしている仲間がいっぱいいる昴はすごいなあ・・・。みんなの発表を聞きながらそんなことを思い、その中に自分も入れてもらっていることに限りない喜びや誇りを感じた次第です。